

保険・証券・その他金融

1. 評価対象企業（9 社）

- 【損保】（3 社） SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
- 【生保】（3 社） かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T&D ホールディングス
- 【証券】（2 社） 大和証券グループ本社、野村ホールディングス
- 【その他金融】（1 社） オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	26
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	34
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	7
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 19 名（所属先 19 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、各評価分野の項目内容や配点を全般的に見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.4 点（昨年度 72.7 点）、総合評価点の標準偏差は、6.8 点（昨年度 6.2 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 76.5 点（昨年度 78.2 点）、生保（3 社）が 68.9 点（昨年度 68.8 点）、証券（2 社）が 66.7 点（昨年度 70.7 点）、その他金融（1 社）は 72.8 点（昨年度 72.0 点）となった。昨年度に比べ、証券が大きく下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度 72%）、**説明会等**が 73%（昨年度 76%）、**フェア・ディスクロージャー**が 79%（昨年度 80%）、**ESG 関連**が 72%（昨年度 71%）、**自主的な情報開示**が 59%（昨年度 61%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全 17 項目中、次の項目（フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目）が 80% 以上の平均得点率となり、高い水準となった。

- ・「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか」（平均得点率 85%〔昨年度 80%〕）（得

点率（評価点／配点（以下省略））：70%台 1 社・80%台 7 社・90%台 1 社）

- ⑤ 一方、次の項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目）は、昨年度に続き平均得点率が最も低くなり、40% 台となった。評価対象企業の多くが得点率を下げており、今後の改善を求めたい。

・「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 48%〔昨年度 55%〕）（得点率：20%台 1 社・30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 1 社・60%台 3 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(a) (b) (d)は、本年度において項目内容を見直している。

(a)「実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るよう に努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み」（平均得点率 70%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 2 社・70% 台 6 社）

(b)「中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表 し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていますか」（平均得点率 74%〔昨年度 同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 5 社・80%台 2 社）

(c)「**E**（環境）に関する適切な目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデートがなされていますか」（平 均得点率 74%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 2 社）

(d)「**S**（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデ ートがなされていますか」（平均得点率 72%〔昨年度 65%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 7 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス（ディスクロージャー優良企業（6 回目）、

総合評価点 81.7 点〔昨年度比－0.7 点〕、昨年度第 1 位〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）83%）、**説明会等**（81%）、**フェア・ディスクロージャー**（90%）、**ESG 関連**（81%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（74%）となった。なお、**経営陣の IR 姿勢等** の中の「（IR の基本スタンス）会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極 的に開示する姿勢が見られること」に関しては、得点率、順位共に昨年度に比べ下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「**経営陣の IR 姿勢**」および「**IR 部門の機能**」が共に最も高い評価となり、 90%以上の得点率であった。「**IR の基本スタンス**」は第 3 位となった。これらに関連して、経営陣、IR 部門共 に積極的な情報開示、発信の姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、構造改革の取組みを経営トップが示 そうとしていることや、四半期決算後の電話会議にも経営トップが参加していることを評価する声もあった。 なお、経営トップと投資家とが直接対話できる機会を増やしてほしいとの声があった。**IR 部門**については、体 制が充実し、担当者の説明能力も高いとの声が寄せられた。「**社外取締役との対話**」は第 2 位となった。
- ③ **説明会等**においては、6 項目のうち 4 項目が最も高い評価となった。特に、「**決算資料・統合報告書等**におけ る開示」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの声が寄 せられ、テーマ別説明会は有益との声もあった。なお、海外を含めたセグメントのデータ開示を評価しつつ、 海外事業の見通しに関する情報の充実を求める声があった。「**事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、 社内リスク管理上のリスク量等（自主的情報開示を含む）**」開示が十分になされていること」（第 2 位（昨年度第 1 位））は、昨年度に比べ、得点率が 8 ポイント下がった。「**決算発表日**」は同得点第 6 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「**フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢**」および「**リモートツ ールによる情報提供**」の 2 項目が共に第 1 位となった。なお、最近の不祥事発生の経緯に関する適時開示は投 資家の要望に対して遅れた印象であり、さらなる詳細な説明が必要との声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「**目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示**」に関連して、政策株削減加速に 伴い資本政策がクリアになったとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「**決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明**

会等を積極的に実施していること」は第2位となった。充実していたイベントとして、海外事業の説明会を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 MS&AD インシュアランスグループホールディングス

(総合評価点 76.6 点 [昨年度比-0.5 点]、昨年度第2位)

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位(80%)、フェア・ディスクロージャー(83%)、ESG 関連(79%)が第2位、経営陣の IR 姿勢等が第3位(74%)、説明会等が第5位(74%)となった。なお、経営陣の IR 姿勢等の中の「(IR の基本スタンス) 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」に関しては、得点率、順位共に昨年度に比べ大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が最も高い評価となった。これに関連して、社外取締役セッション(ESG 説明会)を評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」(第2位)および「IR 部門の機能」(同得点第3位)は、昨年度に比べ、得点率が改善した。これらに関連して、経営陣および IR 部門には積極的な情報開示や発信をする姿勢が見られるとの声が寄せられ、資本効率の改善に関して経営陣の IR 姿勢が前向きであるとの声もあった。なお、経営トップと投資家との対話の機会をさらに増やしてほしいとの声があった。IR 部門については、体制が整備されているとの声があった。「IR の基本スタンス」(第7位)は、昨年度に比べ、得点率が大幅に下がった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(4項目計)が同得点第3位となった。また、「決算資料・統合報告書等における開示」も第3位となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの声が寄せられたほか、MS Amlin の開示などに工夫が見られるとの声もあった。なお、開示基準の変更がある場合には、過去の四半期実績も開示してほしいとの声があった。「決算発表日」は第8位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第2位に、「リモートツールによる情報提供」が同得点第2位となった。なお、最近の不祥事発生の経緯に関する適時開示は投資家の要望に対して遅れた印象であり、さらなる詳細な説明が必要との声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス」および「E(環境)・S(人的資本を含む社会)」に関する情報開示(2項目)の中の E に関する項目が、共に最も高い評価となった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が第2位となった。これらに関連して、政策株削減加速に伴い資本政策がクリアになったとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価となった(昨年度第2位)。充実していたイベントとして、ESG 説明会や MS Amlin 事業説明会を挙げる声が多く寄せられた。

第3位 第一生命ホールディングス (総合評価点 74.8 点 [昨年度比+1.1 点]、昨年度第4位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第2位(76%)、説明会等(76%)、フェア・ディスクロージャー(81%)が同得点第3位、ESG 関連が第4位(74%)、自主的情報開示が同得点第4位(63%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーおよび自主的情報開示の得点率が大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR の基本スタンス」が第2位に、「社外取締役との対話」が第3位となった。これらに関連して、新中期経営計画の説明会などが決算発表前に開催されたことを評価し、また、社外取締役のセッションが有用であったとの声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」は共に同得点第3位となった。これらに関連して、経営陣、IR 部門共に積極的な情報開示、発信の姿勢が見られるとの声があったほか、資本コストの概念を早くから分析・開示しており中期的に目指す姿が明確であるとの声もあった。なお、長期的展望を示していることを評価しつつ、それを裏付ける定量定性的な情報開示の充実を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「決算資料・統合報告書等における開示」が第2位となり「説明会、インタビューにおける開示」(4項目計)が同得点第3位となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの

声のほか、エクセルによる子会社財務データの開示を評価する声があった。なお、新経済価値規制（J-ICS）準拠を理由に EV 開示が後退したとの声があった。「決算発表日」は同得点第 4 位であった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第 2 位（昨年度第 8 位）となり、85%以上の得点率となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 3 位（昨年度同得点第 6 位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が同得点第 3 位となった。また、「コーポレートガバナンス」の得点率が、昨年度に比べ改善し、同得点第 4 位（昨年度第 8 位）となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は同得点第 4 位となった。充実していたイベントとして、経営説明会や新経済価値規制に向けた対応に関する説明会を挙げる声が多く寄せられた。

（注）金融業界では、ガバナンス不全に基づく不祥事が続出している。一部の評価対象企業が金融庁から業務改善命令を受け、真因究明を踏まえた抜本的な対応に取り組もうとしている。当専門部会は、本年度の評価が、このような状況を踏まえて評価項目を一部見直した上で採点された結果であると考えており、それを尊重し、優良企業を選定した。当専門部会としては、適切なタイミングでのディスクロージャー、コミュニケーションがとられ、企業価値向上に資することを望む。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (保険・証券・その他金融)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	3. フェア・ディスクローチャー	4. ESGに関連する情報の開示	5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	前回順位
			評価項目4 (配点26点)	評価項目6 (配点26点)	評価項目2 (配点7点)	評価項目4 (配点34点)	評価項目1 (配点7点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	
1	8766 東京海上ホールディングス	81.7	21.6	1	6.3	1	5.2	1
2	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	76.6	19.3	3	5.8	2	5.6	1
3	8750 第一生命ホールディングス	74.8	19.7	2	5.7	3	4.4	4
4	8795 T&Dホールディングス	73.2	18.8	5	5.6	5	4.7	3
5	8591 オリックス	72.8	18.9	4	5.7	3	2.8	9
6	8630 SOMPOホールディングス	71.2	17.8	6	5.6	5	3.9	6
7	8601 大和証券グループ本社	68.9	16.8	7	5.1	8	2.9	8
8	8604 野村ホールディングス	64.5	15.2	9	5.3	7	4.4	4
9	7181 かんぽ生命保険	58.6	15.3	8	4.7	9	3.1	7
	評価対象企業評価平均点	71.36	18.15		5.54		4.11	

2024年度評価項目および配点（証券・保険・その他金融）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	10
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	5
(4)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。例えば、不祥事、パンデミック、気候変動、サイバー攻撃など。	6
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（26点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	5
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	5
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	4
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（34点）	配点
(1)コーポレートガバナンス	
・実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るように努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み。	12
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示	
・中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	12
(3)E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示	
①E（環境）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	5
②S（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	配点
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。[過去1年間を目安に評価] 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	7

保険・証券・その他金融専門部会委員

部 会 長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	斎藤 佳奈	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
	佐藤 耕喜	JP モルガン証券
	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
	渡辺 和樹	大和証券

評価実施アナリスト（19名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
荻野 晃	丸三証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
斎藤 佳奈	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	摩嶋 竜生	東海東京インテリジェンス・ラボ
坂巻 成彦	みずほ証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
佐々木 太	野村証券	村木 正雄	SMBC 日興証券
佐藤 耕喜	JP モルガン証券	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	渡辺 和樹	大和証券
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。